



み・な・み

二本松南小学校だより No.10
令和8年1月30日(金)
発行責任者 校長 太田 孝志

体調を整えて、学年のまとめをがんばろう！

1月が終わり、令和7年度も早いもので、2月と3月を残すだけとなりました。寒い日が続いていますが、元気に仲良く、校庭で遊ぶ子どもたちの姿を見ることで、こちらまで元気が湧いてきます。残り2ヶ月、子どもたち一人一人が、自分の頑張りや成長が実感できる1年間のまとめとなるようにしていきたいと思えます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

インフルエンザ等の感染症もはやってきています。学校では、手洗い・うがい・換気などの予防対策を行っています。ご家庭でも、お子さんの基本的な生活習慣の確立や体調管理等のご協力をよろしくお願いいたします。

全校集会 校長の話 相手の気持ちを思いやることの大切さ 「いじめ」と「心」

今日は、大切な話をします。それは、「いじめ」と「心」の話です。これが「心」です。いつもは見えないけど、今日は見えるようにします。そして、これが「いじめ」の矢です。

いじめをすると、この矢がこの「心」に刺さります。どんな「いじめ」の矢があるか、

- ①この矢は、「机やノートへの落書き」「くつつかくし」などをする。嫌がらせ
- ②この矢は、失敗したり、人と違っていることを「笑う」などする。からかい
- ③この矢は、「〇〇さんと話すのを止めよう。」とおしゃべりを止める。逃げる。ひとりぼっちにする。無視や仲間外れ
- ④この矢は、遊んでいるふりをして、たたいたり蹴ったりする。暴力
- ⑤この矢は、「死ね」「弱虫」「きもい」「かわいこぶってる」「うざい」などと言う。悪口、言葉の暴力
- ⑥この矢は、しゃべり方や動き方をわざと真似する。からかい



いじめられた人の「心」は、こんなふうに傷ついています。「心」が傷つけられてしまうと「教室に行くのが怖い人」「学校へ行くことができない人」などもあります。こんなふうに、「いじめ」の矢が「心」に突き刺さっている友達はいませんか？

「心」が壊れる前に、「いじめ」の矢を抜かなければなりません。

この矢は、本人だけで抜くのは難しいです。

では、どうやったら抜けるか、それは周りの人の力が必要です。

- 「あなたは一人じゃないよ。」「私がついてるよ。」「大丈夫だよ。」「あなたの味方だよ。心配ないよ。」と声を掛け励ますこと。
- いじめをした人が、反省をして心から「ごめんなさい。もう二度としません。」と謝ること。
- 周りの人が、いじめをしている人に「やめなよ。それはいじめだよ。」と止めること。
- 周りの人が、「〇〇さんが〇〇さんをいじめています。」と先生に伝えること。
- いじめで悩んでいる人は、一人で悩まずに、家の人、先生や友達に自分で伝えること。

そうして、「いじめ」をやめさせるのです。

「いじめ」の矢を抜くことができました。

もう一度、この「心」を見てください。「いじめ」の矢を取り除いた後はどうなっていますか。傷跡(穴)が残っています。

「いじめ」の跡は残るのです。なかなか簡単には消えないのです。一生消えないかもしれません。忘れることができないのかもしれません。だから、「いじめ」は、絶対にしてはいけません。



いじめをした人に、「なぜ、そんなことをしたのか？」聞いたことがあります。

- ふざけてやった。 ○同じことを自分がされても気にしないからやった。
- そんなに嫌だったなんて思わなかった。 ○「いじめ」だとは思わなかった。

同じ事を言ったりやったりしても、「いじめ」の矢が刺さらない人もいます。

少し刺さる人もいます。深く深く刺さる人もいます。自分は、いじめているつもりでなくても、「いじめ」の矢が刺さってしまうことがあります。

だから、相手への優しさ、相手の気持ちを思いやって行動することが大切です。

みんなが楽しく、毎日笑顔で過ごせる「いじめ」のない、二本松南小にしていきましょう。

※ 子どもたちは、とても真剣に聞いていました。ご家庭でも「いじめはしない」「相手の気持ちを思いやって行動することの大切さ」についてお子さんと話し合っただけであればと思います。